

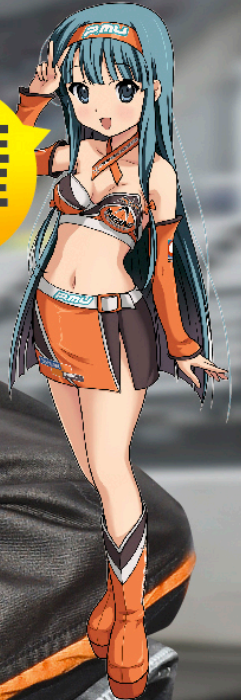


INGING MOTORSPORT

INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2015 VOL.08

TAKE
FREE
無料



石浦初の戴冠 シリーズチャンピオン!! Congratulations!!

Race Report

Round.7 SUZUKA CIRCUIT 11/8 Final

決勝 2015年11月8日 鈴鹿サーキット



Race Report Round.7 SUZUKA CIRCUIT 11/8 Final

決勝 2015年11月8日 鈴鹿サーキット

天候:雨、コース状況:ウェット
 レース1 15:807 km × 20 Laps = 116.14 km
 レース2 15:807 km × 27 Laps = 156.79 km



石浦選手 2015年の
**ドライバーズ
 チャンピオン獲得!!**

プレッシャーの中、
 チーム一丸となり
 見事な走りを見せる

**H.ISHIURA
 2015
 SUPER
 FORMULA
 SERIES
 CHAMPION**

シリーズチャンピオン争いに決着をつける最終戦は、雨の雨で2レースが行われた。レース1のスタートグリッドは、石浦が2番手についていた。そして、予選では11位となった国本は、他車がエンジン交換によるグリッド降格ペナルティを受けたためひとつ前に進んだ10番グリッドからレースに臨むこととなった。

予選日までは、日照りこそ入らなかったものの終日ドライコンディションとなった鈴鹿サーキット。しかし、夜半から降り出した雨はレース1がスタートとなり、2周にわたるセーフティラップの間に雨が降るペースが切られた。水しぶきで視界が遮られることもあり、レースペースでは大きな順位変動なく、集団が進められていたが、路面にたまる水の状況は劇的に変化しているため、ドライバーたちは高い集中力を求められる、精神的ハードな戦いが続く。加えて、10番スタートの国本は前後のマシンのギャップが近く、さらにタフな戦いとなった。中盤以降はマシンにトラブルの症状も出始め、思うようにペースが上がらなくなり、前のマシンを抜くこととなったが、後ろからのプレッシャーをしっかりとしのぎながら、他車のリタイアもあり入賞でチェッカーを受けた。2番手の石浦もポジションキープで今年3回目の表彰台を奪取。中盤には一気にかえアップした小林可夢偉の猛追を受け、18周目のシケインでは小林が石浦の横に飛び込み順位が交錯する場面もあったが、熱い争いでコースオフを喫する小林を冷静に追い抜き、2位のポジションを守り切った。注目のシリーズランキングは、2番手の中嶋一貴が4位に入賞したことで、決勝は本日の最終レースとなるレース2に持ち越しとなった。

インターバルの間も雨は降り続け、さらにコース上に水が乗った状態がレース2が行われることとなった。28周で争われる予定のレース2だったが、スタート直前、石浦の目の前のグリッドにつけていた小林可夢偉のマシンにトラブルが発生。スタート直前はやり直しとなる。レース距離は1周減算され、27周であらためてレーススタートとなった。小林のマシンが最後周に下げられたため、目の前がクリアとなった石浦は落ち着いたスタートを決め6番手のポジションをキープ。国本は1コーナーへ飛び込んでいく混乱の中で10番手にポジションを落とすこととなった。

レース1からマシンのセットアップを変更してレース2に臨んだ国本だが、選択したレインタイヤが雨量などのコースコンディションにマッチせず、ペースを上げられず苦しいレースとなった。それでも懸命にマシンを操り8番手まで順位を取り戻すと、最後は最後から急浮きの追い上げを見せてきた小林可夢偉とのバトルで観客をひきつけた。最後に残っていたオーバーテイクシステムを使いつつ、要所をブロックして小林の追い上げを阻止。ポジションを守りきり、8位入賞を果たした。

6番手でレースを進めていく石浦。このポジションを守れば初の表彰台が確定する石浦は、前後のマシンのギャップをコントロールしながら周囲を重ねていく。周囲では、最終戦らしい激しいバトルが展開され、その中でアシダカインやトラブルに見舞われレースから退いていくマシンも出てくるが、それも石浦をフォローするかのよう。他車の脱落で、石浦の順位は10周目には5番手に、翌週には4番手に徐々に上がっていくこととなった。背後に迫るマシンも出てきたものの、これも後続同士のバトルで石浦とのギャップが広がり、レース終盤には4番手の単独走行に、危ないない走りでも4位チェッカーを受け、今シーズンのドライバーズタイトルを獲得した。



「シリーズタイトルを手に入れることができ、嬉しい気持ちもありますが、それよりもホッとしたいという気持ちの方が大きいです。この週末に向けてプレッシャーは当然ありましたが、チームが明るい雰囲気の中でコースに送り出してくれたことで、予選からいい走りができました。「国は自分の力だけでいい走りをする自信もありません。シーズン終盤からはチームの皆もプレッシャーを感じているように見えたので、しっかりと結果を返して本当に良かったです!」

38 石浦 宏明
 08月11-22日 08月23-24日

「レース1では、途中からマシンに不具合が出てペースを上げることができずに苦戦しました。それを踏まえてレース2に向かいましたが、今回は選んだタイヤがコンディションに合わなかったようで、1レース目よりペースが上がらないうちに、最後はオーバーテイクシステムを駆使していたのでなんとかポジションを守ることができました。最初から最後まで激しいレースとなりました。自分の力を発揮できずに終わってしまい、納得のいかないシーズンとなりましたが、その中でも収穫はあったと思っています。このままでは終われません。来年もチャンスももらったときに同じ思いを請け合ってもらって、シーズンオフにしっかりと準備したいと思っています!」

39 国本 雄貴
 08月11-22日 08月23-24日

「石浦は、いつも通りの戦いができました。今シーズンどこのコースでもどんな状況でも一番安定して戦っていたのは石浦です。それがポイントです。ロードリキッドに合わせた原因だと思っています。そういう部分があるので、今日は安心して見ていました。レース2がスタートしてすぐ、「国本は飛び込んでくるかもしれない」という感覚もありましたね。もちろんアシダカインやトラブル、何が起きかわかりませんが、チームの誰も完璧な仕事をしてくれて、感謝しています。国本もレースではウェットで苦しい展開になりましたが、本来の思いと少し違うところも少しは取り戻すことができました。今シーズン上手いかなということも多く、個人的には表彰台も取りましたが、本来の国本はこんなものじゃない。また来年、今度は国本を優勝争いできるようにチームみんなできっとうりやっています。今シーズンのチャンピオンを獲ったことで、来シーズンは選ばれる立場になります。チームとしてここから更に一歩一歩レベルを上げてきているので、来年に向けても同じように、今よりもレベルを上げられるように今シーズンオフも準備を進めていって、連覇を目指したいと思っています。1年間たくさんのお支えありがとうございました!」

Team director
 立川 祐路